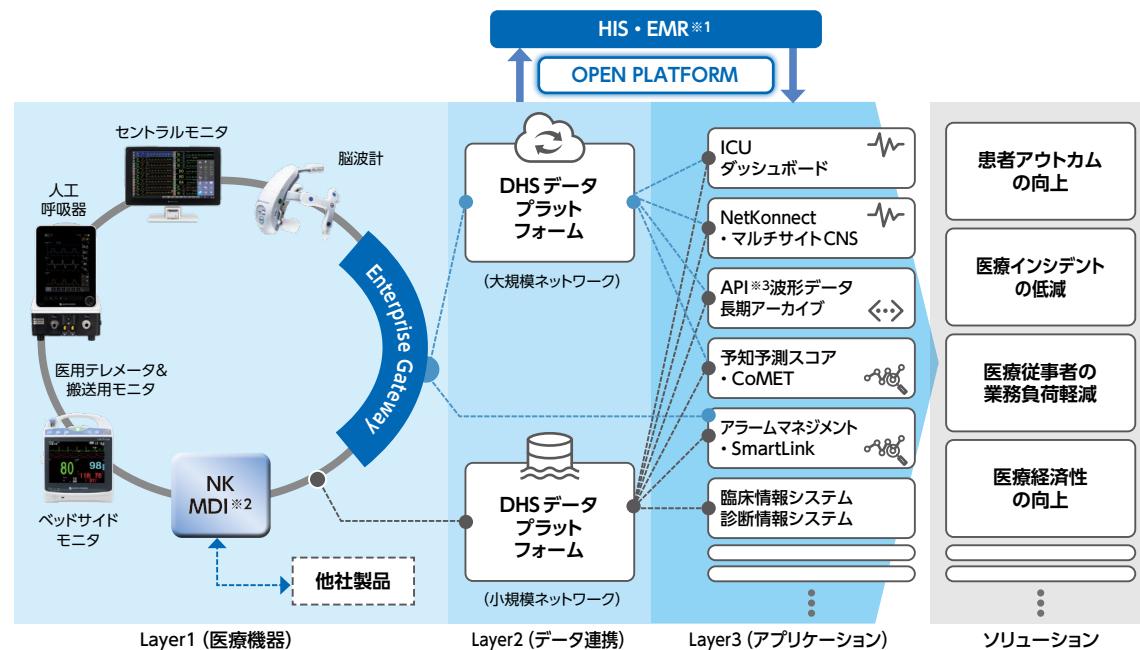


デジタルヘルスソリューション (DHS) 構想の進展

日本光電は、2030年に向けた長期ビジョン「BEACON 2030」の実現に向けて、「デジタルヘルスソリューション構想」を推進しています。



DHS構想の概観

※1 HIS (Hospital Information System): 病院情報システム、EMR (Electronic Medical Record): 電子カルテ。

※2 MDI (Medical Device Integration): 医療機器統合。

※3 API (Application Programming Interface): 異なるソフトウェアやアプリケーション間で機能を共有するための仕組み。

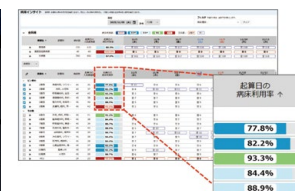
中期経営計画「BEACON 2030 Phase II」では、Phase Iで構築してきたプラットフォームや技術力をもとに、様々なソリューションの開発を進めています。2025年度は前年に引き続き、日米で開発したソフトウェアやサービスを相次いで市場投入しました。

国内では、病棟におけるアラーム管理を支援するオンサイトアラーム分析ソフトウェア QP-841Nおよび入退院業務支援ソフトウェア QP-842Nを発売しました。病棟では頻発するアラームへの対応により、真に対応が必要なアラームを見逃すリスク (アラーム疲労) が医療課題となっています。QP-841Nは、病棟内で発生するアラームの傾向を視覚化・分析し、データに基づく継続的な改善活動を支援します。アラームの根本的な原因把握と改善支援により、医療安全の強化と医療従事者の業務負荷軽減への貢献を期待しています。

また、近年の診療報酬改定においては、早期退院や在宅復帰につながる取り組みが評価される傾向にあり、在院日数の適正化や病床稼働率の向上が求められています。QP-842Nは、病床管理に必要な情報をリアルタイムで取得・集約・可視化することで、医療従事者の業務負荷軽減や医療安全性の向上に加え、病院経営面での改善にも寄与しています。



オンサイトアラーム分析ソフトウェア
QP-841N



入退院業務支援ソフトウェア
QP-842N

デジタルヘルスソリューション (DHS) 構想の進展

さらに、医療機器リモート監視システム MD Linkage ポータルでは、新たに「除細動器管理コンテンツ」を追加しました。これまで医療従事者が院内を巡回しながら個別に実施していた除細動器の時刻同期、機器の管理をクラウド上のポータルを通じて遠隔で一元管理できるようになりました。点検結果や消耗品の使用期限、機器の使用履歴などを Web 上でリアルタイムに把握することで、機器管理等の時間を削減し、患者さんのケアにより多くの時間を割くことを可能にします。これにより、医療安全の向上と医療機器管理の DX 推進への貢献を期待しています。



除細動器管理コンテンツ

米国においても、日本光電デジタルヘルスソリューションズ LLC で開発した DHS 製品の普及拡大を進めています。遠隔モニタリングソリューション RemoteSense は、複数の医療機関に分散する患者さんの状態を一括してリアルタイムに遠隔監視できるソリューションです。医師や看護師不足が深刻な夜間帯における患者さんのモニタリングや、複数施設を有する病院グループにおける集中モニタリング体制の構築を支援します。2025年度は、UMass Memorial Health をはじめとする著名な医療機関に採用され、業務効率や医療安全の向上につながると高い評価をいただいています。サブスクリプションモデルによる提供を通じて、円滑な導入と継続的なサービス改善を両立し、さらなる普及を目指します。



遠隔モニタリングソリューション
RemoteSense

アラームソリューション AlarmSense は、病院全体および病棟別のアラームデータを横断的に分析し、アラーム疲労の軽減を支援するソリューションです。データに基づく改善活動を通じて非アクションアラームを継続的に削減し、医療安全の向上と医療従事者が患者さんのケアに集中できるよう支援します。国内で展開する QP-841N とともに、日本光電グループとしてグローバルなアラーム管理ソリューションのポートフォリオを構築していきます。



アラームソリューション
AlarmSense

てんかんや睡眠時無呼吸症候群等の遠隔診断をサポートする Live View Panel Pro は、専門医が複数の患者さんの容態をリアルタイムで把握・判断できる統合ビューを提供し、医療機関内外にまたがる脳神経ケアを効率的に支援します。米国では脳神経領域の専門人材不足が課題となっており、専門医の知見を遠隔から活用できる環境整備のニーズが高まっています。トップ病院からのフィードバックを仕様・機能に反映し、ユーザインターフェースを最適化することで、専門医の業務効率向上と迅速な意思決定を通じた診療実績の向上への貢献を目指しています。日本光電は、長期ビジョン「BEACON 2030」の実現に向けて、今後も医療 DX の普及を通じて患者アウトカムの向上、医療従事者の業務負荷軽減と医療経済性の向上に貢献し続けます。



脳神経遠隔診断支援
Live View Panel Pro